

Economic Indicators

発表日:2021 年 8 月 6 日(金)

主要経済指標予定(2021 年 8 月 9 日~8 月 13 日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム(Tel:03-5221-4525)

(8 月 9 日~8 月 13 日の主なイベント、指標予定)

	指 標 名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
8 月 9 日 (月)	振替休日				
8 月 10 日 (火)	8:50 7 月貸出・預金動向 国内銀行貸出残高(前年比)	—	—	—	+0.8%
	8:50 6 月国際収支統計 経常収支(原数値、億円)	+7,798	+8,244	+2,678~+11,833	+19,797
	13:30 6 月特定サービス産業動態統計調査				
	14:00 7 月景気ウォッチャー調査 現状判断 DI(季節調整値)	42.3pt	42.5pt	42.0pt~46.0pt	47.6pt
	先行き判断 DI(季節調整値)	50.0pt	49.2pt	47.0pt~50.0pt	52.4pt
8 月 11 日 (水)	8:50 7 月マネーストック M2(前年比)	+5.4%	+5.4%	+5.0%~+5.7%	+5.9%
	M3(前年比)	+4.7%	+4.7%	+4.1%~+4.9%	+5.2%
	広義流動性(前年比)	+5.7%	+5.7%	+3.4%~+5.8%	+5.9%
8 月 12 日 (木)	8:50 7 月企業物価指数 (前月比)	+0.5%	+0.5%	+0.2%~+0.9%	+0.6%
	(前年比)	+5.0%	+5.0%	+4.5%~+5.4%	+5.0%
8 月 13 日 (金)					

6月国際収支・経常収支（原数値） 当社予想：7,798 億円 中央値：8,244 億円

6月の経常収支は、7,798 億円（原数値）の黒字と予想する。昨年の急激な落ち込みの裏が生じることで、前年比では極めて高い伸び率となるだろう。海外経済の回復に伴い輸出が増加したが、原油価格上昇やワクチン確保による輸入の増加が上回り、季節調整値での貿易収支は黒字幅の縮小となる見込み。先行きについては、貿易・サービス収支で輸入が輸出の増加ペースを上回る一方で、所得収支が支えとなることで、経常収支は底堅い推移が継続することが見込まれる。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

7月景気ウォッチャー調査 現状判断DI／先行き判断DI（季節調整値） 当社予想：42.3pt／50.0pt 中央値：42.5pt／49.2pt

7月景気ウォッチャー調査の現状判断DIを42.3pt、先行き判断DIを50.0ptと予想する。現状判断DIは、足元での感染急拡大により、飲食やサービスなどの家計関連を中心に前月比低下を見込む。先行き判断DIでは、足元の感染拡大や変異株等の懸念材料はあるものの、ワクチン接種進展による先行き期待感が続くことで、分岐点の50近傍となるだろう。

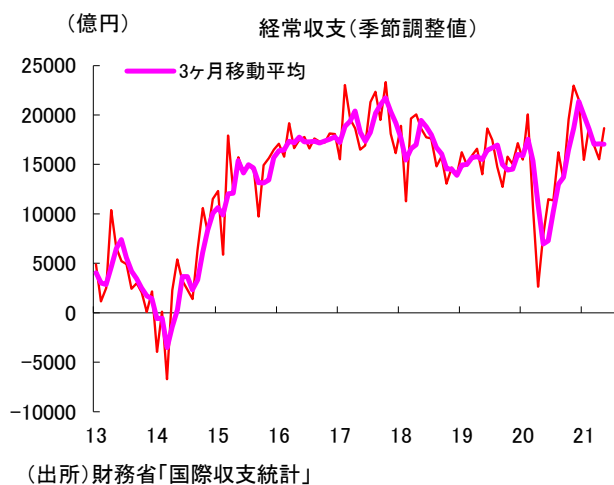
（副主任エコノミスト：大柴 千智）

7月企業物価指数・国内企業物価 当社予想：前年比+5.0% 中央値：同+5.0%

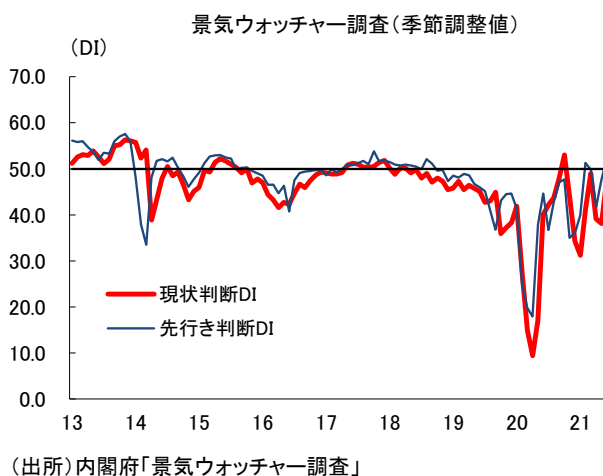
7月の国内企業物価を前月比+0.5%、前年比+5.0%と予想する。また、夏季電力料金調整後では、前月比+0.3%と予想する。原油価格の上昇により、石油・石炭製品、電気・都市ガス・水道がプラスに寄与するほか、世界経済の回復を受けて商品市況で高値を付けている木材・木製品等を中心に、前月比で上昇が続くだろう。また、昨年同時期の落ち込みの裏が出ることもあり、前年比でも+5.0%の高い伸びが継続するだろう。来月以降も4%台での高い伸びが続く見込み。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

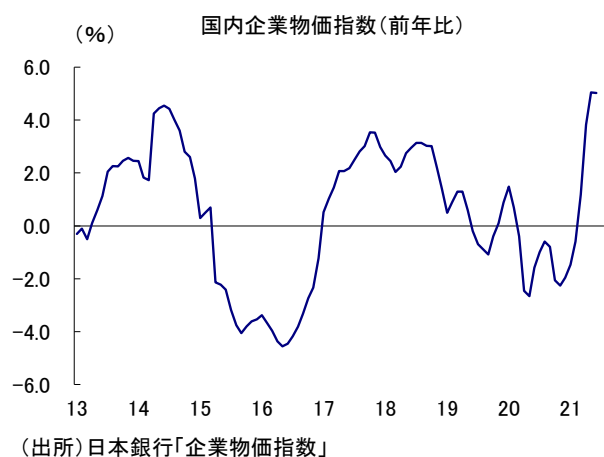
図表1



図表2



図表3



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

